

### 三四会横浜支部

平成28年度三四会横浜一ムベージ上は横浜三四支部(横浜三四会)総会が、11月16日(水)横浜駅西口ベイシエラホテル&タワーズで開催された。当日は武田純三四会会長、堀内雄三四会会長(52回)に加え、三田会・四会交流を目的として横浜三田会会長鈴木邦之氏、昭和31年経済学部卒、同会役員星野幸彦氏、鎌倉三田会副会長久保田陽彦氏を、来賓としてお招きした。会員総数744名中117名(開業および他地転勤務医47名、勤務医70名)の会員が集い、来賓や応援指導部までを含めると124人が参加し、八十島唯一会長(産婦37回)が就任し「新生横浜三四会」として、会員全員参加目標として企画してから記念すべき10回目の総会であった。当日の司会進行は、済生会横浜支部院長で本院院長の中島洋介(必61回)が務めた。

八十島会長から「本会の目的は会員間の親睦と他支部との交流にあり、際際懇話の医師としての自覚を持つことであるが、社中横浜三田会との交流を深めていきたい」という挨拶に加え、当会ホ  
 タイムリーな話題であった。銀メダルを獲得した。陸上の4×100メートルリレーの詳細な解説をはじめ、女子内盤投げて1000年代の後半の世界記録リオの優勝記録が9メートルも勝っていたは、明らかにな東欧諸国のドーピングであるという衝撃的なデータを見せられて、満場スライドに釘付けになった。薬物以外にもドーピングがあること、競技でない時でも抜き打ち検査が行われるトップアスリートが日本に約750人いること、ステロイド・ペプチドホルモンや興奮剤のほかに、何気なく使っている配合剤や、市販薬の中にドーピングで引っかけ薬剤があること等、意外な事実に参加者一同得るところの多い講演であった。

講演後、三田監局長より拝借した最大旗を仰いで、応援指導部員の下駄歌斉唱を行い、本会会員で当日参加者の最年長の竹内宏先生(36回)による乾杯の発声で、開宴した。36回生の大先輩から95回生の新卒までが集う会であったが、研修医に対する(の)会費の割引効果からか、初期9名・後期3名の研修医が参加し、会場には若い層の出席者が多く、華やかな雰囲気であった。

締めとして、4名のチアリーダーをバックに、2名の応援指導部の指揮による応援歌「若き血」一丘の上「チャンス」をスローで拍手を交えながら歌った。最後の「慶應讃歌」は一番を応援指導部OBの横浜市民病院形成外科の鈴木悠史(93回)の指揮で、2番を現役の応援指導部4年久保田智彦の指揮で、3番を父上志応援指導部OBの鎌倉三田会副会長久保田陽彦氏の指揮を肩を組んで盛り上がり、一回大いに感のちの散会となった。

出席者：鈴木邦之(横浜三田会)、星野幸彦(横浜三田会)、久保田陽彦(鎌倉三田会)、八十島唯一(37)、山澤文(60)、武田純三(52)、堀内雄(52)、竹内宏(36)、鈴木理文(38)、横井正博(39)、野崎正之(39)、香川順(40)、岩田清二(41)、市川敏(42)、龜田正(43)、鈴木絢(44)、西川武二(43)、鈴木木卓二(44)、川城文夫(45)、関賢一(47)、宮地清光(48)、郡建男(49)、吉田博之(49)、吉田民子(49) 秋山仁(50)、菅原信(50)、中原克彦(50)、安藤暢敏(50)、鈴木木彰(51)、渡辺知雄(50)、中村修三(53)、増田純一(53)、中村恒夫(54)、久保内光一(55)、中野眞作男(55)、前澤眞理子(56)、永田博司(56)、高松研(57)、酒井章次(57)、宇津見義一(57) 石原淳(58)、城裕之(58)、山下真紀(58)、中島史雄(59)、高田博(60)、三角隆彦(60)、藤井芳明(60)、野村栄貴(61)、小松弘一(61)、中島洋介(61)、川浦光弘(61)、山下行雄(62)、吉田宏(62)、田口暢彦(62)、古堀清和(63)、永見圭一(63)、江端広樹(64)、藤田浩文(64)、小形章(64) 長島敦(64) 相三

野村有子(65)、松本秀年(65)、河大悟(87)、松田諭原(87)、小堺香織(90)、沖藤道夫(66)、西澤隆山(91)、八代聖(91) 相山(91)、佐藤祐仁(92)、菅野雄紀(92)、梅田浩太(93)、鈴木悠史(93)、松居祐樹(93)、伊藤啓太郎(94)、金子雄太(94)、岸本翔太郎(95)、湯浅絵理佳(95)、加藤修三(95)、鈴木木孝典(95)、鈴木大介(95)、高橋鉄朗(95)、津田昇(95)、小野澤輝計118名応援指導部6名全124名。

なお、当日の総会真集が出来上がりました。当会ホームページ(www.h34-jyoho.com)で閲覧、ダウンロードできるので、思い出さるまで、覗いて頂きたい。

文責 久保内光 (外55)

